

# 街を行く

第156回 大阪 Osaka

## 生まれ変わった御堂筋

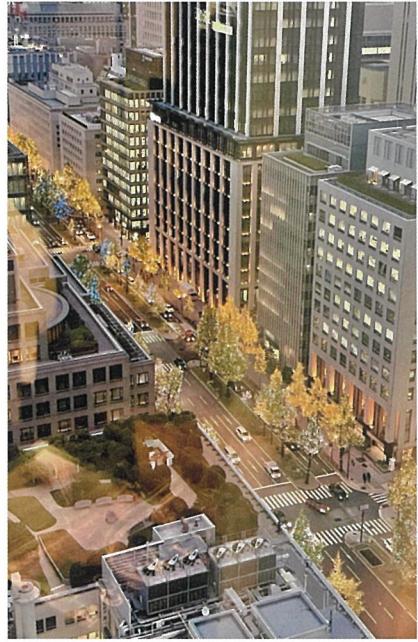
大阪を取り上げるのは約10年ぶりです。

仕事での行き来こそ頻繁ですが、エリア一帯で慌ただしく動く不動産市場にかまけるあまり、「街」の視点から大阪をみることはありませんでした。今回仕事でたまたま余裕ができ、自分の足でゆっくりと街を歩く機会を得て、忘れていた特色を再認識し、見落としていた変化に気づくことができました。

この街の特色とは何かといえば、どんなに進化しても原点は上方(かみがた)だということでしょう。上方は、もとは政を司る天皇が住む京都を表す言葉で、それが近畿全般を指すようになり、やがては大阪の代名詞となりました。政治の中心が江戸に移った以降も文化と経済の中心として発展した大阪の文化的な特色は、歌舞伎や落語、淨瑠璃にみる通り、ざくばらんで慣れ慣れしい人情にあります。誇張し過ぎれば「大阪のおばちゃん」になりますね。

経済ではかつての船場、いまの御堂筋周辺が中心。江戸時代トップクラスの商人が鎬を削る場であり、旧財閥系企業、総合商社の起源である伊勢商人や近江商人の卓越したビジネススキル、経営センスはまさにこの地で磨かれていたのです。いまの東京・丸の内や大手町に似ていますね。

ですが、過去30年間を振り返ると大阪の衰退ぶりには目を覆いたくなります。御堂筋に事業拠点を構えていた大企業はごそり東京へ移転しました。さらに梅田の再開発が追い打ちとなり、ビジネス街としてのブランド力は急速に衰えてしまっています。かつてのこの界隈の



美しい夕暮れの御堂筋の街並みと大阪市役所のイルミネーション

元気な雰囲気を知る筆者にとっては寂しい限りです。既存のビジネス中心街が権威を失い、活気が奪われ、個性がなくなると、ただただ通勤に便利なターミナル周辺再開発エリアへ人気が移ってしまうのも仕方ないことかもしれません。

しかし見てください。イチョウが色づく季節、日が暮れてからの街並みの美しさを(写真)。もともと御堂筋は銀杏並木が有名で、秋が深まるとき銀杏が道を埋め尽くします。歩行者にとっては決して良い匂いではないですが、それはそれでこの街の風物詩がありました。

いつもの事ですが、食事も重要な街歩きの一つなので、今回は大阪の洋食の草分け「ガスビル食堂」を訪ねてきました。昭和8年(1933年)のガスビル(大阪ガスの本社社屋)竣工以来、戦時中の空襲にも負けずに存続してきた老舗

です。名物のデミグラスソースは格別で店内のレトロな雰囲気も最高でした。ビジネスでこそ上方らしさは薄れましたが、ソースの濃厚さは、これぞ上方!たこ焼きやお好み焼きといったB級グルメも良いけれど、じっくり煮詰められてきた歴史も大きな味の要素です。御堂筋は、美しい景観と味覚を楽しむ街に生まれ変わりましたね。

南一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アプライジションズを経て、2001年エース・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。